

第 20 回あーす祭 UP SIDE DOWN

社会福祉法人 ふらっぶ

〒574-0027 大阪府大東市三住町 2－1

助成事業の概要

本事業は、精神障害や発達障害のある当事者が日頃取り組む活動を地域に紹介し、障害への理解促進と交流の場を作ることを目的として実施した。「UP SIDE DOWN」は、心の病に対する固定的なイメージを見直し、当事者の多様な表現に触れてもらうことをテーマとしている。

実施時期は 2026 年 2 月 14 日で、当事者が中心となって実行委員会を組織し、音楽演奏やダンス、朗読劇に加え、自身の思いや経験を詩や言葉で表現する発表など、多様な企画を構成した。広報としては、地域に 3000 部のチラシを配布し、市役所などの行政機関、関係事業所、クリニックにも設置を依頼したほか、法人ホームページや SNS でも情報を発信した。

当日は、地域食堂を利用する親子や近隣住民も来場し、当事者の活動に触れる機会となった。参加者は全体で 120 名となり、地域とのつながりを広げる取り組みとして意義ある開催となった。

事業の成果

今年度は例年に比べて不安定さを抱える利用者が多く、準備期間中も揺れが見られたが、それぞれが支えを受けながら自分のペースで取り組み、当日の発表につなげることができた。出演者の中には、人間関係の不安から、複数の演目への参加を迷う姿があった利用者もいた。職員とともにこれまでの練習や、表現することを大切に思ってきた気持ちを振り返る中で、「一時的な感情で好き

な活動まで手放したくない」という思いが芽生え、自分で出演を選びなおすことができた。当日の発表後には「参加して良かった」と話し、ほっとした表情を見せていた。

体調が安定しにくく、人前に立つ機会が限られていた利用者は、一つの役割を自ら引き受け、自宅で台本練習を重ねて本番に臨んだ。当日は落ち着いて持ち場を守り、「思っていたよりできた。来年はもっと上手にできるかもしれない」と振り返るなど、前向きな意欲が感じられた。また、不安が強く練習に参加したい気持ちはありながらも休みがちだった利用者も、周囲の支えの中で少しずつ気持ちが整い、当日は得意な表現力を発揮して発表をやり遂げた。困難な時期を乗り越えて舞台に立てたことは、本人の自信につながる大きな経験となった。

展示作品では、苦手なことをユーモアを交えて漫画にした作品に「読みやすくて、その人のしんどさが伝わった」との声が寄せられた。独自の感性で描いた幾何学的な抽象画や、そのモチーフの小物販売も好評で、「素敵やね」と声をかける来場者の姿もあった。日頃関わる訪問看護や事業所職員、ヘルパーなどの支援者が来場し、普段とは違う利用者の表情に触れる機会にもなった。作品や発表を通して利用者の新たな一面を知ってもらえたことは、支援関係の理解を深める大切な成果となった。

成果の広報・公表

本事業の広報として、地域に 3000 部のチラシ

を配布し、関係事業所やクリニックに加えて、市役所などの行政機関にも設置を依頼した。また、法人ホームページや SNS でも情報を発信し、精神障害や発達障害の当事者が日頃取り組む活動を紹介することで、地域の理解促進にも努めた。

これらの広報の結果、地域食堂を利用する親子が参加し、子育て世帯にも情報が届き始めていることが確認できた。さらに、地域食堂以外の近隣住民も数名来場し、一般住民にも関心が広がりつつあることが成果として挙げられる。一方で、広く周知したにもかかわらず、参加者数は限定的であり、事業の魅力や参加メリットが十分に伝わらなかった可能性がある。今後は、地域食堂や子育て支援団体など、既に信頼関係のある拠点との連携を強め、より多くの親子や地域住民に情報を届けられる体制づくりを進めたい。

今後の展開

今後は、今年度の取り組みを踏まえ、より多くの地域住民や支援者、家族に参加してもらえよう、広報方法やつながりづくりを強化していく。参加者が増えることは、発表する当事者にとって緊張感や達成感を得る機会となり、実際に症状が安定するなど良い変化が見られたため、来場者の拡大は重要な課題である。また、支援者や家族には当事者の新たな一面を知る機会となり、地域住民にとっては障害への理解促進につながることから、日頃から地域団体や子育て世帯との接点を増やし、継続的な関係づくりを進めたい。

次回もサーティーホールでの開催を予定しており、大きな舞台での発表が当事者の意欲向上につながるとの声もあることから、自己表現の場としての価値をさらに高めていく。今後も当事者主体の企画運営を大切にし、表現の幅を広げながら、地域に開かれたイベントとして発展させていきたい。